

株式会社三井E&Sマシナリー
取締役 執行役員 堤 広行

脱炭素社会実現に向けた さらなるチャレンジ！

三井E&Sマシナリーでは、世界的な脱炭素の潮流を受け、いち早く環境対応型製品の開発に着手しています。

具体的には、NO_x、SO_x、GHGの排出を抑制した船用大型ディーゼルエンジンの生産拡大や将来の排ガスゼロに対応可能なコンテナ用ヤードクレーン「ニア・ゼロ・エミッショントランスターナ」（NZE-TT）の販売を開始しています。

さらに水素燃料電池駆動の「ゼロ・エミッション・トランスターナ」（ZE-TT）などの新しい技術を通じて港湾を中心とした脱炭素に貢献していきます。



カーボンニュートラルへの挑戦を通じて環境への貢献と自社の成長を実現

CO₂排出量削減の取り組みと目標

マテリアリティ	顧客と社会への持続的提供価値	2025年度予想	2030年度目標	関連するSDGs	
脱炭素社会の実現	環境負荷の低減 ・優れた技術とサービス	<ul style="list-style-type: none"> 重油燃焼船用エンジン CO₂排出量 (834万t-CO₂/年^{*1}) 従来型トランスターナ CO₂排出量 (0.4万t-CO₂/年^{*1}) グループ会社の生産活動 CO₂排出量 (5.4万t-CO₂/年^{*1 *2}) 	<ul style="list-style-type: none"> グリーン燃料燃焼船用エンジン、ゼロエミッショントランスターナ市場投入によるCO₂削減量 ▲90万t-CO₂/年 (▲11%^{*3}) 製品ライフサイクル通期^{*4} ▲1,800万t-CO₂ CO₂削減量^{*2} ▲0.6万t-CO₂/年 (▲11%^{*3}) 	<ul style="list-style-type: none"> CO₂削減量 ▲550万t-CO₂/年 (▲66%^{*3}) 製品ライフサイクル通期^{*4} ▲1.1億t-CO₂ 参考： 2030年度 一国のCO₂排出量 ・日本：7.6億t-CO₂/年 ・ドイツ：4.4億t-CO₂/年 CO₂削減量^{*2} ▲0.9万t-CO₂/年 (▲17%^{*3}) 	 

1 2019年度CO₂排出量, *2 集計対象:機械事業におけるScope1及び2, *3 2019年度比, *4 製品ライフサイクル20年間とした通期,

当社グループ2023中期経営計画での成長戦略

- ・気候変動問題は事業課題
- ・CO₂削減に寄与する製品開発に注力

2030年の日本の目標
温室効果ガス排出量46%削減に寄与

グリーン戦略 (GX)

- ・LNG燃焼エンジンの供給
- ・アンモニア燃焼エンジンの開発
- ・港湾荷役機械のグリーン化

→ CO₂削減に寄与



LNG燃料
船用エンジン



ニア・ゼロエミッション
トランスターナ